

## 津島江道（岡北中）遺跡

寒川 史也

### 【遺跡の位置】



S=1/25,000

### 【遺跡の概要】

津島江道（岡北中）遺跡は、岡山市北区津島東一丁目にある岡山市立岡北中学校内に立地している。岡北中学校内では過去に数度、発掘調査が行われており、最初のもは1986年から1987年に中学校の中央棟校舎と浄化槽の建設に伴って実施されている。その際、縄文時代晩期にさかのぼる可能性がある水田遺構が検出されている。その後、1996年から1998年にかけて、岡北中学校の校内では給食棟と南棟校舎の建設に伴って調査が実施された。給食棟調査区では古代の掘立柱建物群が確認され、また古墳時代中期から終わり頃、集落内においては骨角製品以外に鉄生産に関係する遺物や遺構がみつかり、手工業生産の活発さがうかがえる。一方、南棟校舎調査区内の主幹水路とみられる溝からは絵画土器が出土しており、土器には狩猟場面が線刻で表現されている。近年では2015年に北棟校舎の新築に伴い、弥生時代終末期から古墳時代前期の溝状遺構や古代の掘立柱建物群が調査されている。

津島江道遺跡の遺跡としての特徴は、古墳時代の終わりから奈良時代にかけての時期に集落の景観が大きく変化をとげている。具体的には遺跡内の堅穴建物が掘立柱建物を主体とするものとなり、これに倉庫とみられる建物も組み合わさる。その建物配置と構成の一部には、官衙的な要素を見出すことができる。

### 【文献】

岡山市教育委員会 2011『津島江道（給食棟・南棟校舎）遺跡』

岡山市教育委員会 2017『津島江道遺跡－岡山市立岡北中学校校舎改築に伴う発掘調査－』

### 【交通】

JR 津山線「法界院」駅下車 徒歩5分

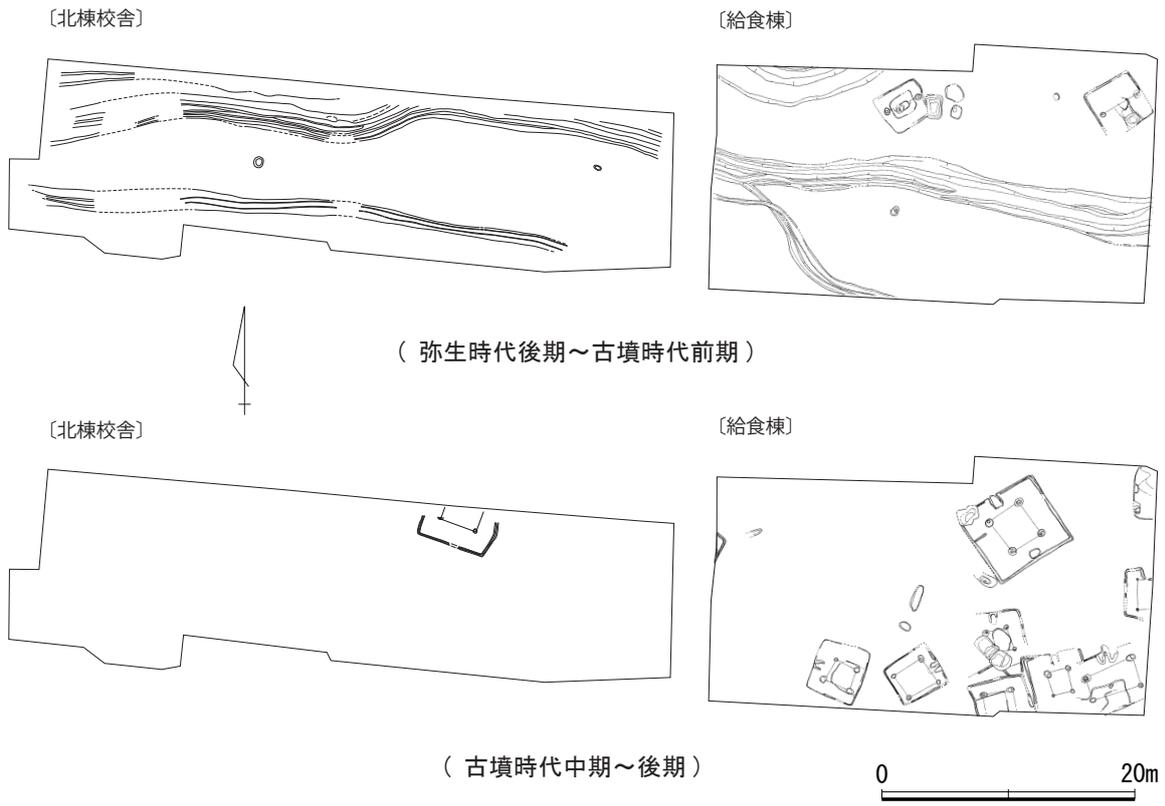


図1 弥生時代から古墳時代にかけての遺構の変遷

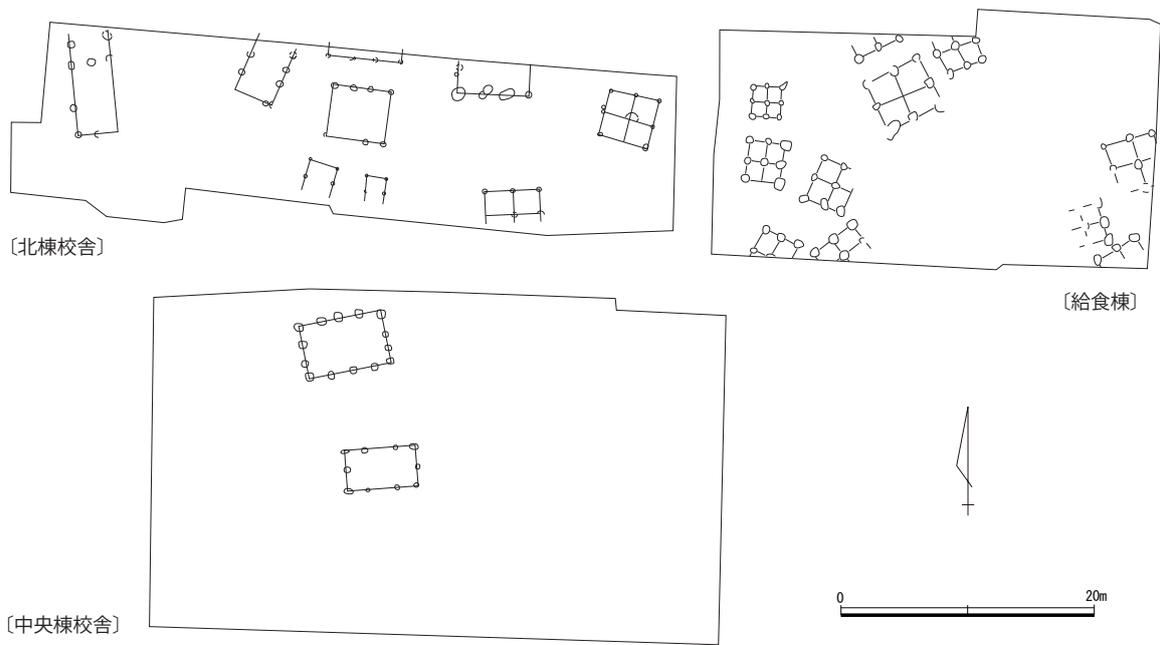


図2 古墳時代の終わりから奈良時代にかけての掘立柱建物の分布